



卷五



聖時
麻呂
作繪
乃



友箱
中



卷

國貞



聖



作



兄

上

卷

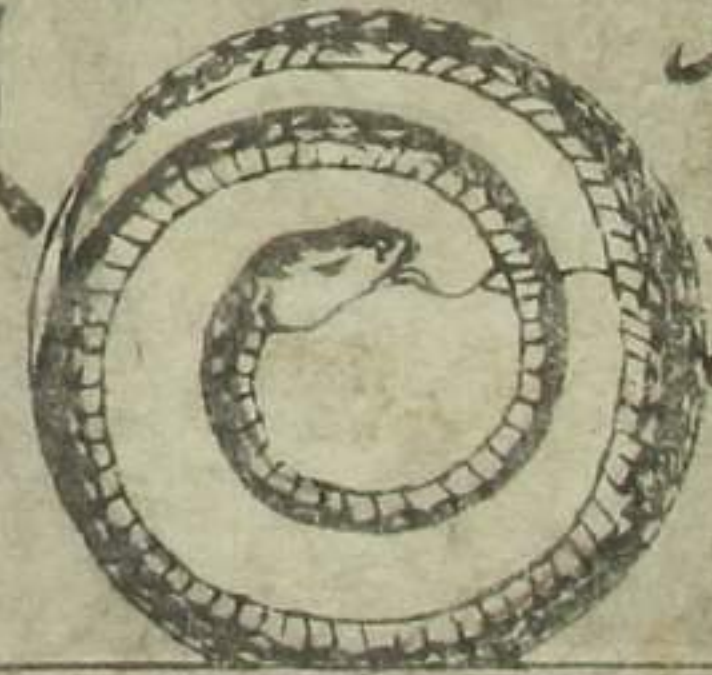
丸牙



貞

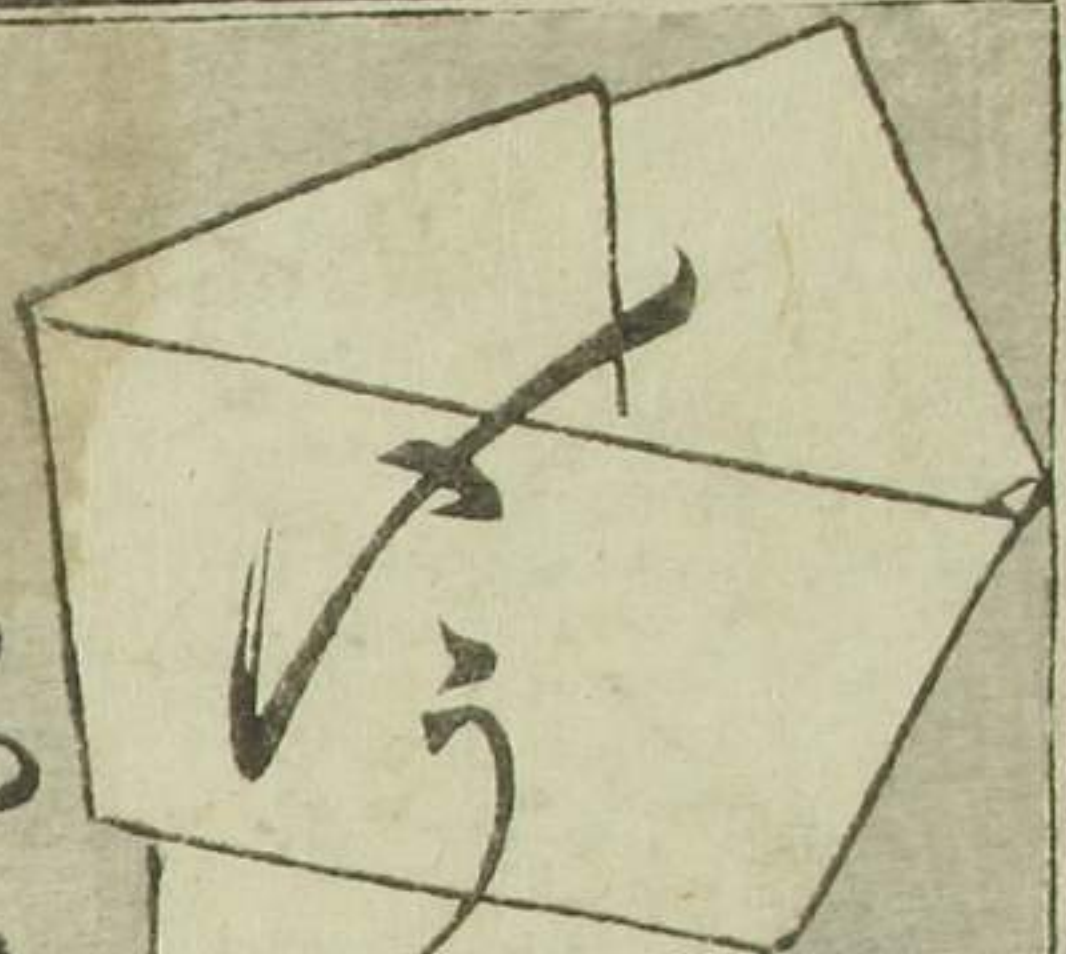
國

画



山本梓

遠
2378
192



う
移り
移り

葉
古

志
乃
山
の
心
を
と
ん

香
丸
を
と
ん

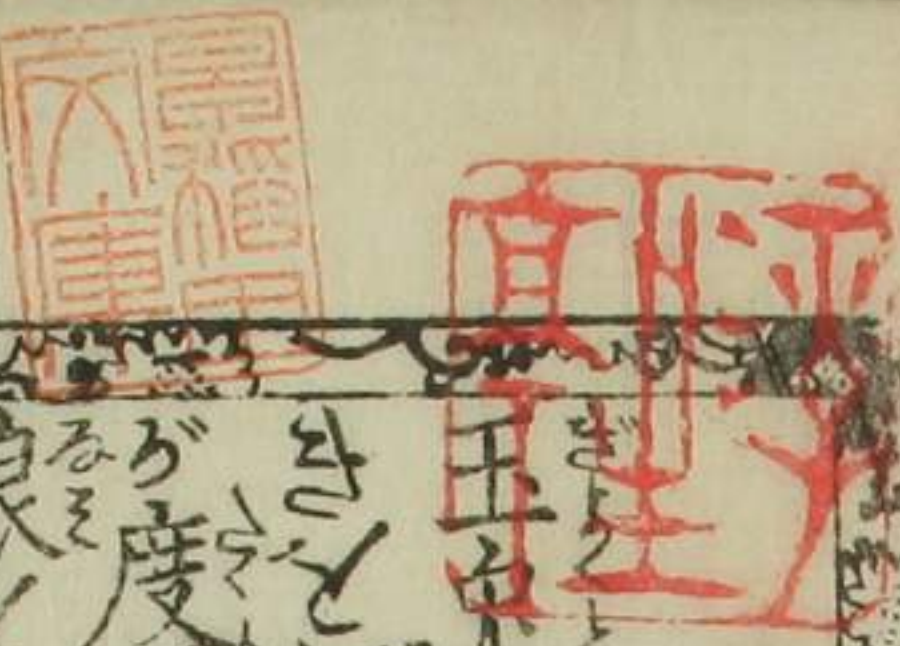
玉
貝
を
と
ん

十二才の内鬼の詞

玉まき丸とひらをとんり、さい字の予まとまるる、ま木の中の登り、ふん登り、し悪くきと何を責めん、あ汝の備の徳をとりて、み耳をとりて、あ長くもやるる、し子房が度量ありて、あ色いと白くもあるる、あ髯のるる、あ非むむむ謀とりて、あ浪を走らし、あ術をりて、あ月中のあ人とあらはる、あ株をつまづつて、あ愚者のたの不笑るる、あ勿れ脱免の勢とりて、あ處女を過るる、あ勿れ借るる、あ足の銀の増え、あ以て短く目の珊瑚の玉、あ鑽石と飾り、あ答とを、あ山と土舟の大柄をとりて、あ金ちちのあらはる、あ相とと病瘡、あ寺の鼓の或は雪の花をとりて、あ胸のあらはる、あ何と並上て、あ勢のや耳を格氣の角をとりて、あ疑いるる、あ勿れ必ず、あ枝の鬼の三穴を、あと獵人の矢玉とあらはるる、あ表の製をとりて、あ慎しめ

天保十二辛丑年孟春發行里坐川亭雪磨啓

一



玉菊妹

玉菊妹
玉虫

丑
大威徳明王

辰
大威徳明王
大威徳明王



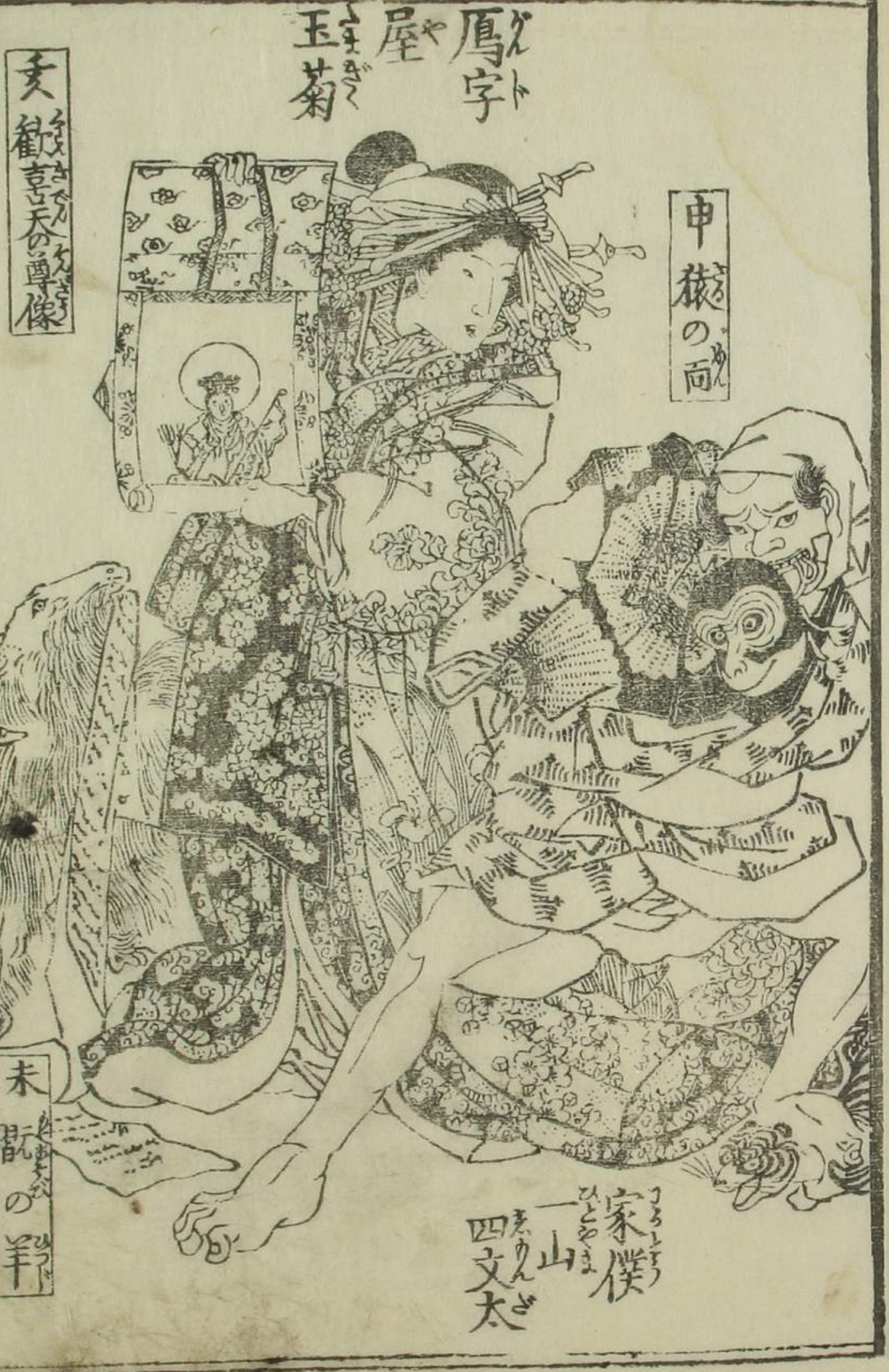
佐々木
瀬川采女

巳
徳の口徳

子
巖山如次郎

午
采女





玉屋 鳳字

夫 歡喜天の尊像

申 猿の面

未 断の羊

家 山 一 文 太



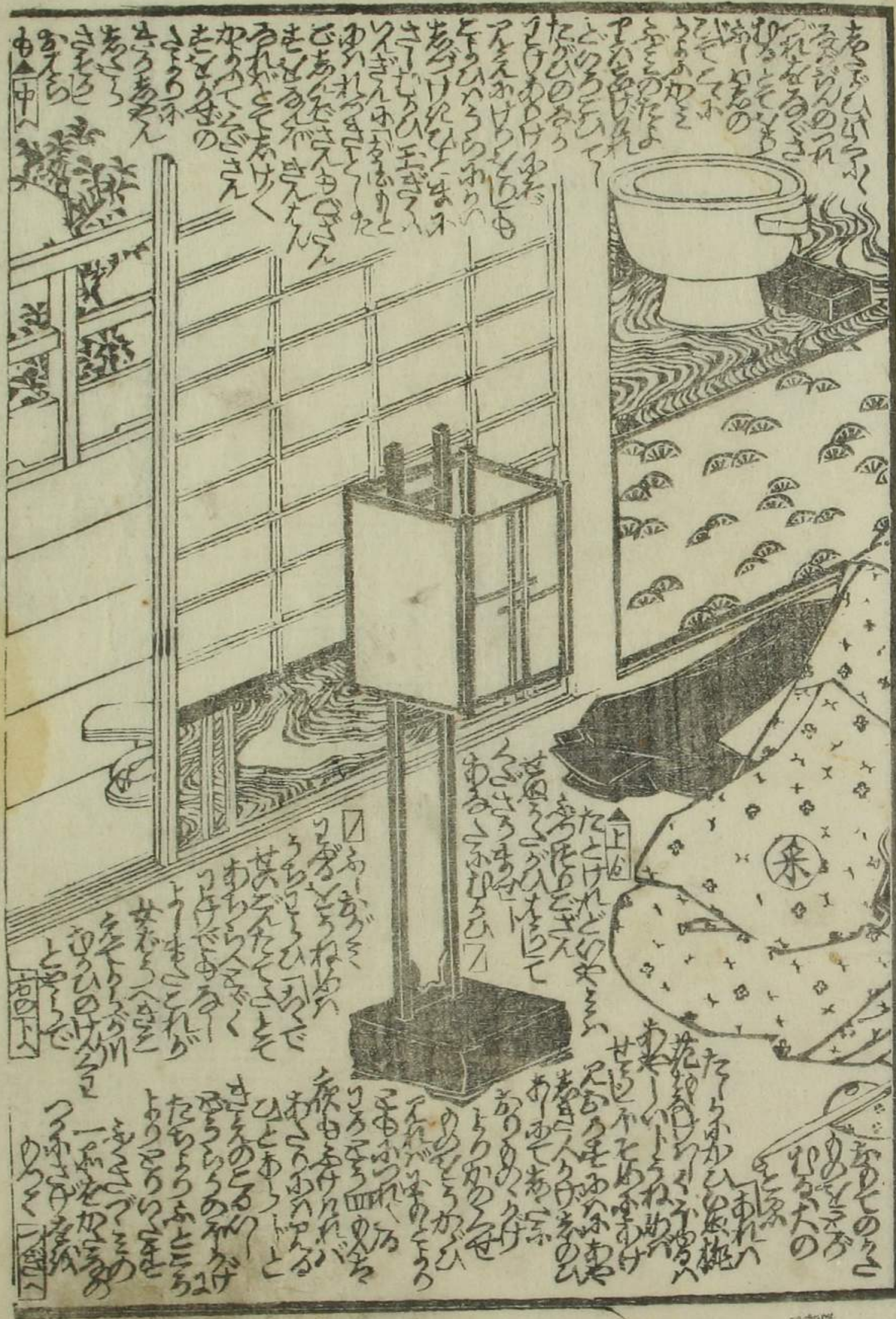
采女 阿菊

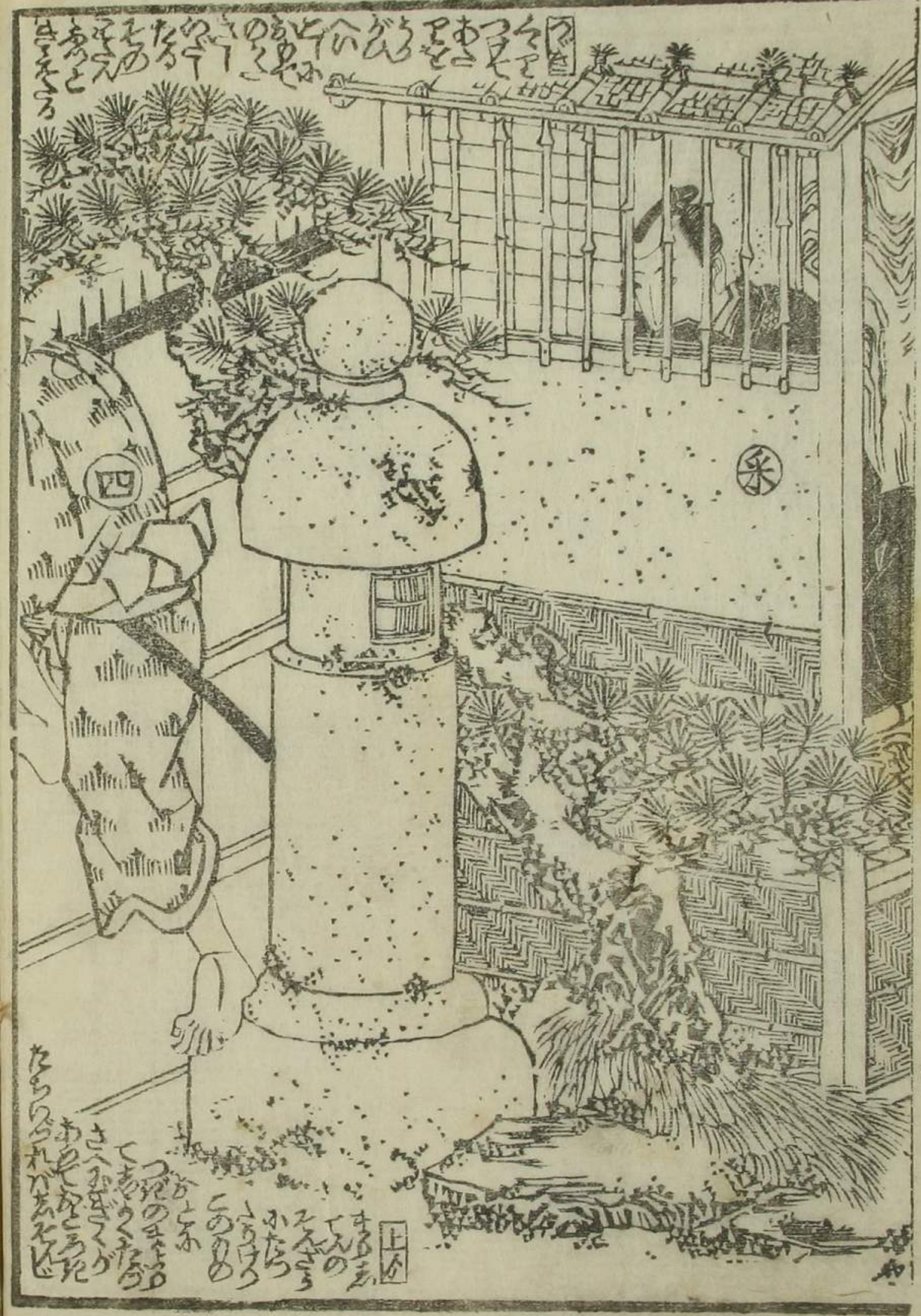
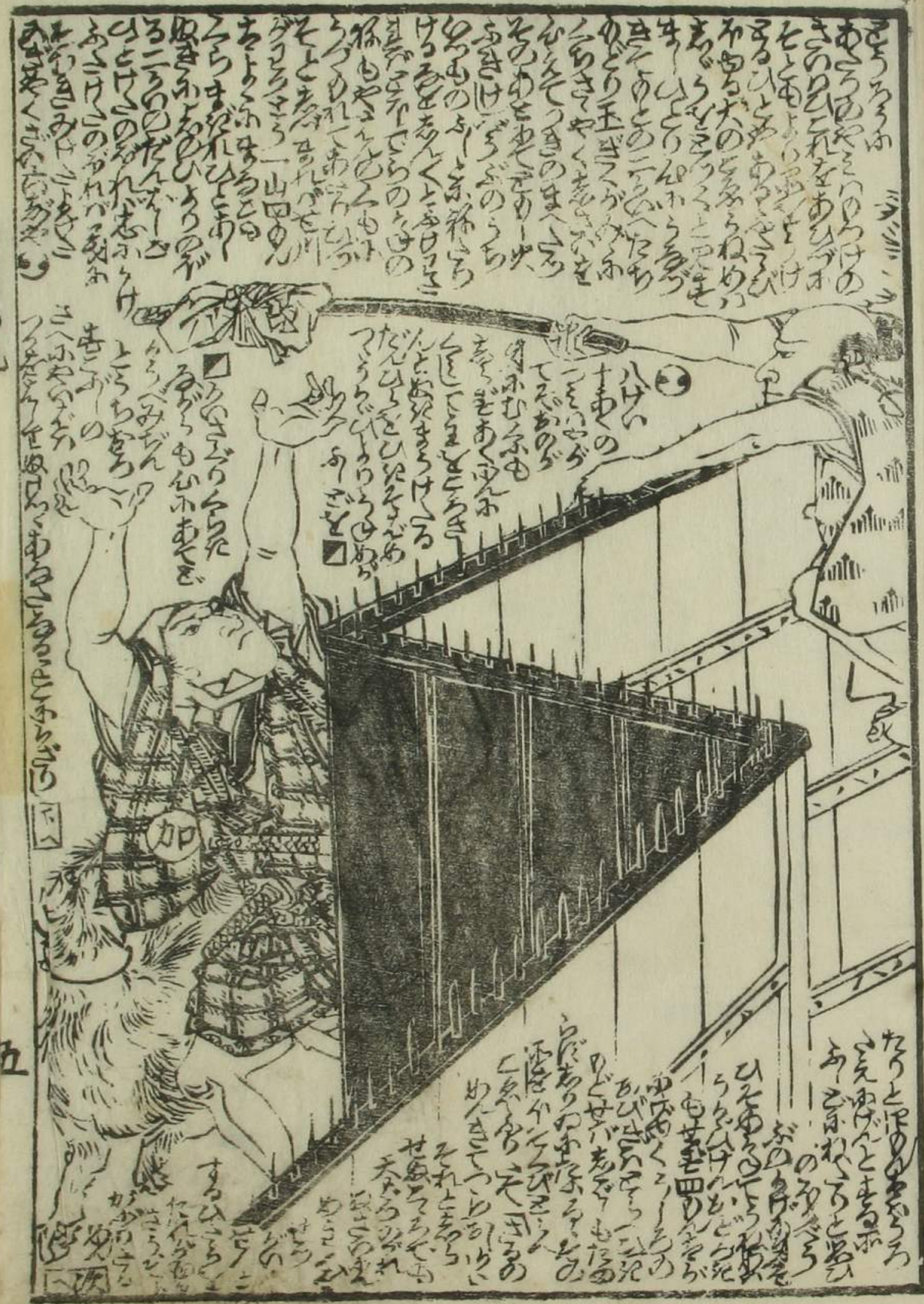
酉 兎の鶏絵

一子 友石

郊 兎の根附

寅 手遊の張子







上のついでに
 けりていふはなはち
 けりていふはなはち
 いとほへるふかきと
 るくさちあつとど
 とつていふはなはち
 あつていふはなはち
 いとほへるふかきと
 るくさちあつとど
 とつていふはなはち
 あつていふはなはち

上つていふはなはち
 いとほへるふかきと
 るくさちあつとど
 とつていふはなはち
 あつていふはなはち

上つていふはなはち
 いとほへるふかきと
 るくさちあつとど
 とつていふはなはち
 あつていふはなはち

上つていふはなはち



上つていふはなはち
 いとほへるふかきと
 るくさちあつとど
 とつていふはなはち
 あつていふはなはち

上つていふはなはち
 いとほへるふかきと
 るくさちあつとど
 とつていふはなはち
 あつていふはなはち

上つていふはなはち
 いとほへるふかきと
 るくさちあつとど
 とつていふはなはち
 あつていふはなはち

上つていふはなはち
 いとほへるふかきと
 るくさちあつとど
 とつていふはなはち
 あつていふはなはち

上つていふはなはち
 いとほへるふかきと
 るくさちあつとど
 とつていふはなはち
 あつていふはなはち

上つていふはなはち
 いとほへるふかきと
 るくさちあつとど
 とつていふはなはち
 あつていふはなはち

上つていふはなはち



これぞ...

...

ついでに...
その...
ついでに...
ついでに...

左に...
さうして...
さうして...
さうして...

おれが...
おれが...
おれが...
おれが...

ついでに...
ついでに...
ついでに...
ついでに...

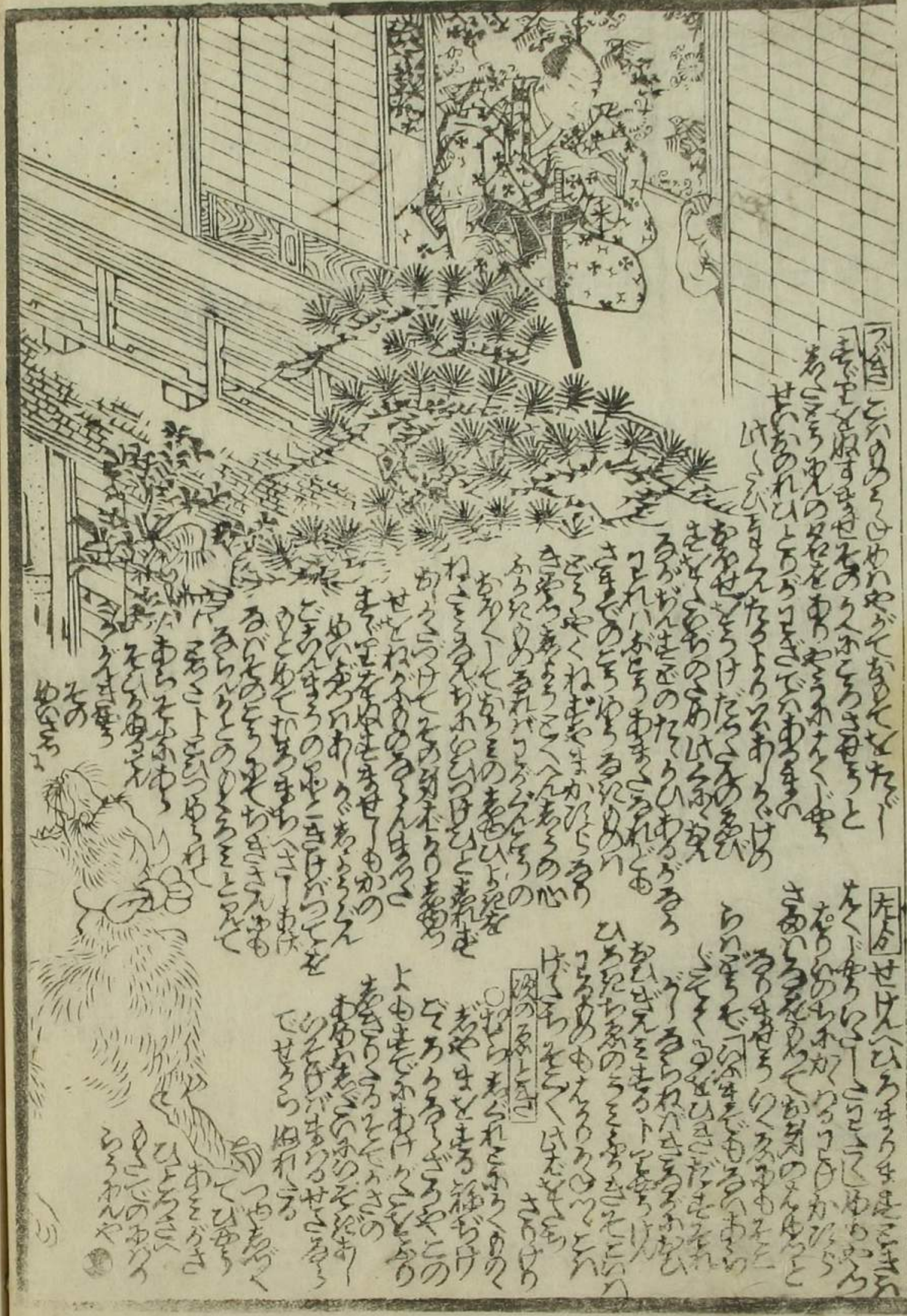
さうして...
さうして...
さうして...
さうして...

おれが...
おれが...
おれが...
おれが...



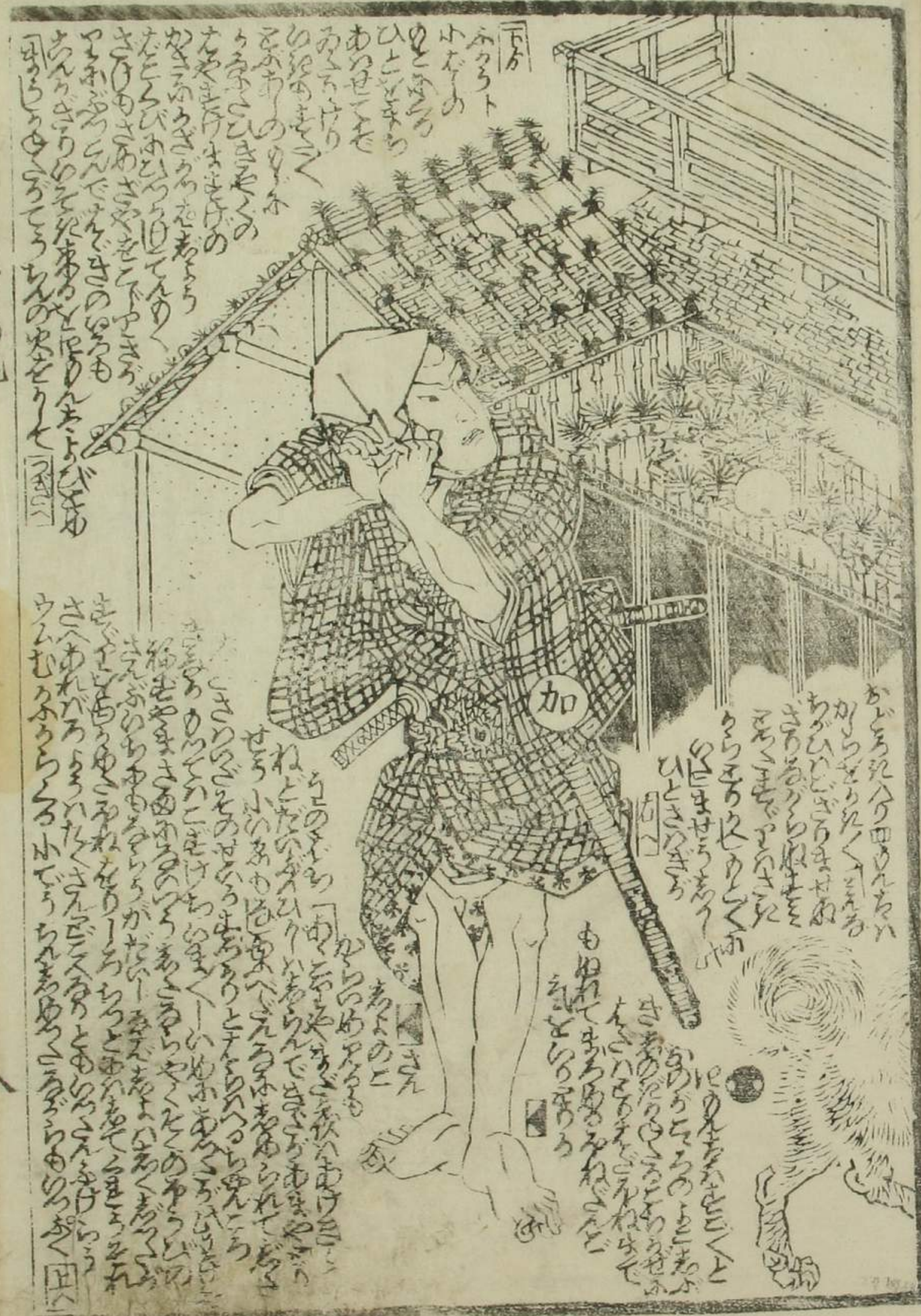
ついでに...
ついでに...
ついでに...
ついでに...

おれが...
おれが...
おれが...
おれが...



あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて

あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて



あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて

あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて
あまのたのうらやめがてあてたて

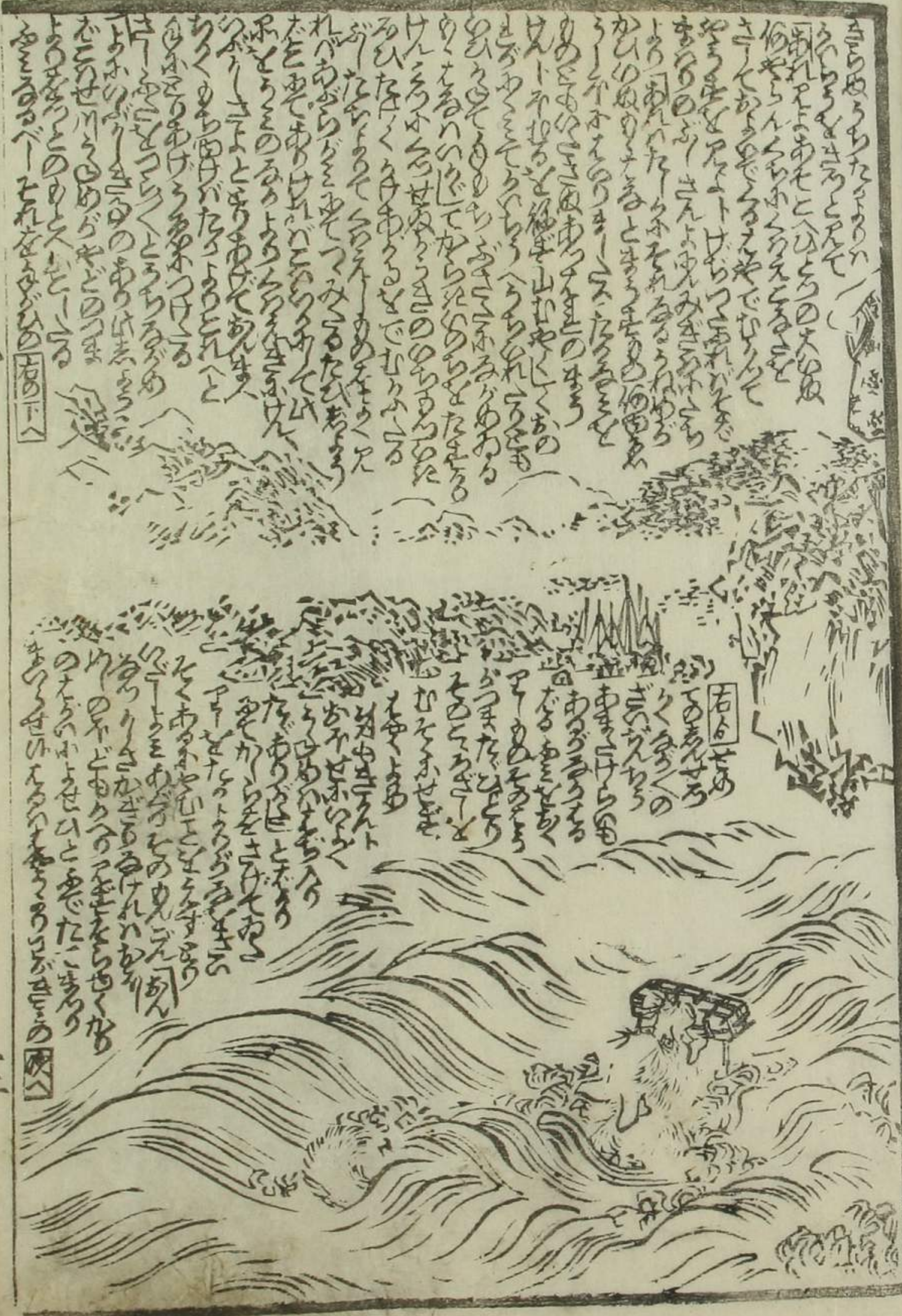


ひれあやま
まあやうめん
おんどのん
あやま
おんどのん
あやま
おんどのん
あやま

左の上

左の上の犬かひのくあしてあつたけん
まてふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん

あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん



あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん

あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん
あやまはふく白えやくらねりおん



今昔物語の...
この世の...
あつた...
いふ...
...
あつた...
いふ...
...
あつた...
いふ...
...

この世の...
あつた...
いふ...
...
あつた...
いふ...
...
あつた...
いふ...
...



今昔物語の...
この世の...
あつた...
いふ...
...
あつた...
いふ...
...
あつた...
いふ...
...

この世の...
あつた...
いふ...
...
あつた...
いふ...
...
あつた...
いふ...
...



河内守の御
御





五の巻の
おのづから
むすんで
おのづから
むすんで

五の巻の
おのづから
むすんで
おのづから
むすんで



六の巻の
おのづから
むすんで
おのづから
むすんで

雪磨作

雪磨作
おのづから
むすんで
おのづから
むすんで

國貞画







花の散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし
 花散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし

花散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし
 花散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし

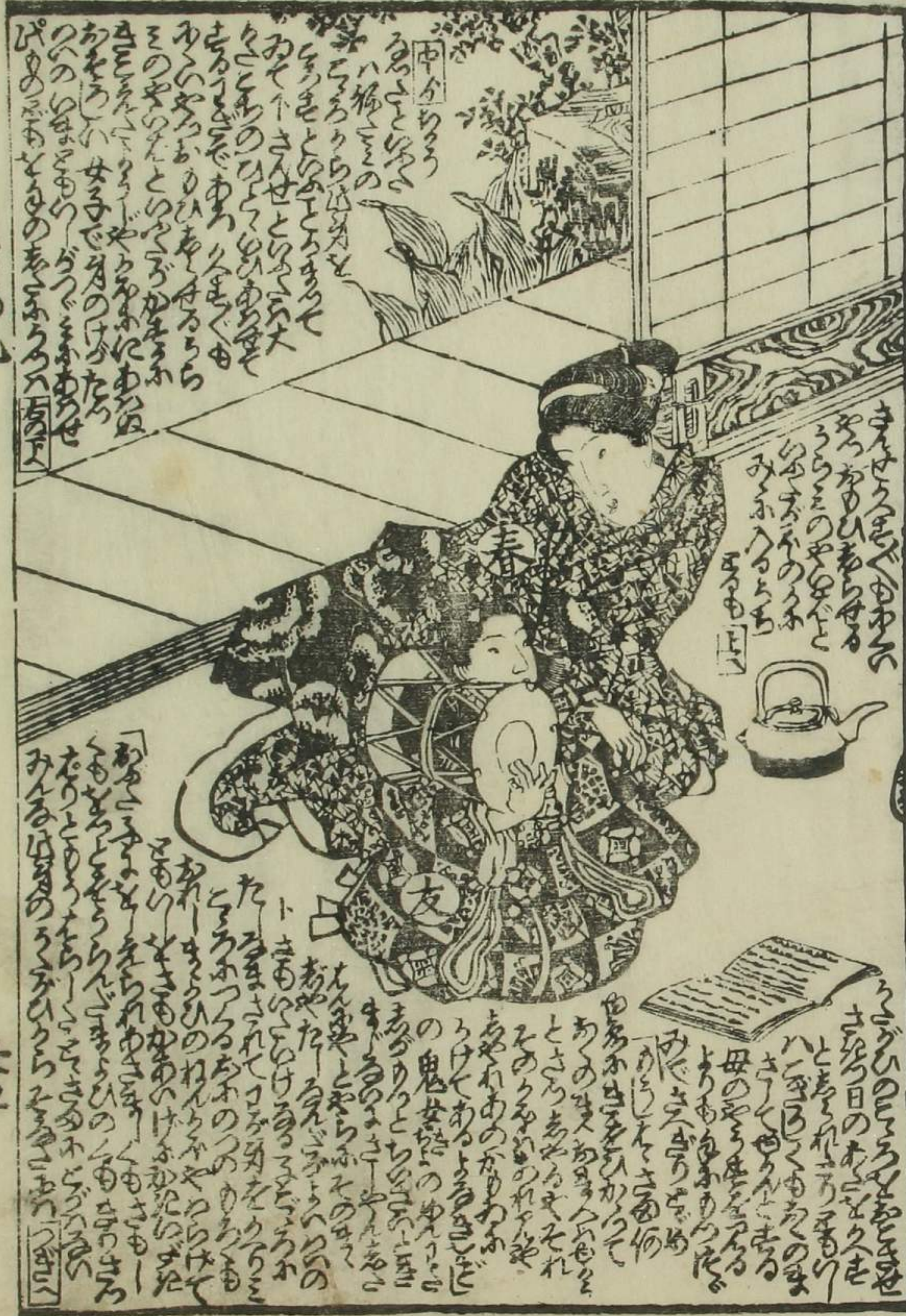
花散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし
 花散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし

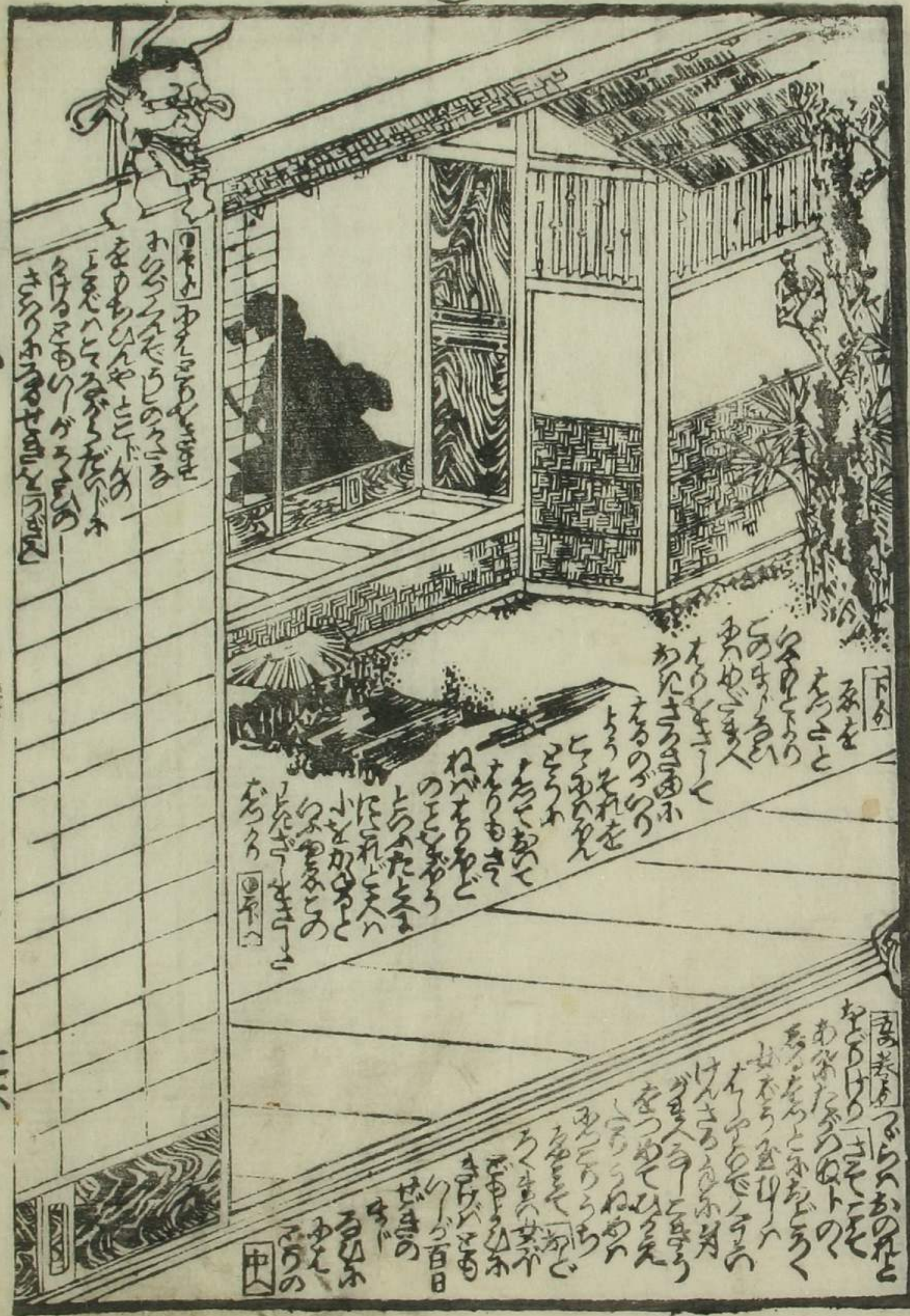


花散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし
 花散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし

花散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし
 花散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし

花散るるは
 春の風情なり
 人の心も
 散るる花の
 ごとし





田舎のやまのふし
 おのころのふし
 なむらひのふし
 上へはつたふし
 下へはつたふし

下へ
 田舎のふし
 おのころのふし
 なむらひのふし
 上へはつたふし
 下へはつたふし

田舎のふし
 おのころのふし
 なむらひのふし
 上へはつたふし
 下へはつたふし



田舎のふし
 おのころのふし
 なむらひのふし
 上へはつたふし
 下へはつたふし

田舎のふし
 おのころのふし
 なむらひのふし
 上へはつたふし
 下へはつたふし

田舎のふし

田舎のふし





この世の事は
おぼろげなる
かたはりの
さきかたの
うらみ
あはれ
おぼろげなる
かたはりの
さきかたの
うらみ
あはれ

いらんが
おぼろげなる
かたはりの
さきかたの
うらみ
あはれ

わかれぬ
おぼろげなる
かたはりの
さきかたの
うらみ
あはれ



この世の事は
おぼろげなる
かたはりの
さきかたの
うらみ
あはれ

わかれぬ
おぼろげなる
かたはりの
さきかたの
うらみ
あはれ

いらんが
おぼろげなる
かたはりの
さきかたの
うらみ
あはれ

わかれぬ
おぼろげなる
かたはりの
さきかたの
うらみ
あはれ

六九

六九

香蝶樓因負画 墨川亭雪磨作



菊壽童七編 全四冊
山東庵京山作
香蝶樓因負画

東海道五十三驛 全三冊
鶴屋南北作
一勇齋因負画

萬年紙龜聞書 全四冊
五雲亭貞秀画

兄弟時繪芝相 全冊
墨川亭雪磨作
香蝶樓因負画

美艶仙女香
一包四十八せんり
里油美玄香
石田久堂製

若紫東顏見世 全六冊
五柳亭徳升作
香蝶樓因負画

思妻赤繩糸遊 全四冊
美圖垣笑顔作
五雲亭貞秀画

浪華浮美棹美締 全四冊
美圖垣笑顔作
五雲亭貞秀画

世話俊實替寫譚 全四冊
笠井仙果作
香蝶樓因負画

白雪糕 日本本町坂本町
川口宇兵衛製
灸錦繪間屋 栄久堂山本平吉版

る

御粧白粉
海内無類

天人香

一箱 價貳匁
一包 代百五十文

天人香の白粉の名方より他家製法の品と日と同等を語りて寒中
 の雪水七度水干一家傳の藥露を浸し置いて晒技を極製最上の品を
 此みまもひのあとふきとりぬるのりと艶うるさく香氣あつくや
 るとくどくゆき薫を保支久し年経てうせぬ蘭香の薫常々
 懐おきまほ白袋の代をるま●本化粧の一夜こえてもうさたつとあ
 色を白くくはやくくふわくと玉のぬたを冷艶全く雪を欺く実や上
 多き天人香 本朝白粉の冠たる●尋常白粉の春をるま●分量の
 多少にかかわらず品の優劣御照覽之上且試み化粧し給り天人香の名
 目空しくく功能迅速あり

本家製法所

江戸本町二丁目

式亭三馬精製



